

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100870		
法人名	社会福祉法人 公風会		
事業所名(ユニット名)	フローレンス三寿 ジュエリーユニット		
所在地	和歌山市 向 180-1		
自己評価作成日	令和3年6月4日	評価結果市町村受理日	令和3年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JiyosyoCd=3090100870-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境作りを行い、入居者様個人の尊重と有する力に応じ、自立した日常生活を送れるように努めている。また、感染対策を行い、毎月のイベントと定期的なクラブ活動を行う事で入居者様とともに楽しく、安心して暮らせる空間作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境を大切にし、日常の生活を中心に関りを深めて接している。身体や生活の状況の維持だけを目指すのではなく、可能な限り機能回復ができるよう、生活動作を活動的に行えるよう工夫した関りを持ち、自立した生活ができるよう支援されている。現在は自粛しているが、入居者や入居者の家族・地域住民にも声をかけ、夏祭りの開催を検討するなど、地域に根差した支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはユニット内の良くわかる所に掲示し、職員間で共有し、実践するよう努めている。	理念は、スタッフが目につき易いリビングなどに掲示し周知に努めている。事業所は、家庭的な雰囲気を大切に考え、大きな家族の一員としてのかかわりを大切に支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々のかかわりとしては充分とは言えないが例年はお正月には地域の神社に初詣に出かけたり、地域の小学校の社会見学を受け入れたりし交流を深めている。	近所に神社があり、そこで行われる夏祭りには、準備の段階から関わりを持ち、参加につながる検討をされている。夏場などは、外気浴と足浴を楽しみ、通りがかる地域の人との交流がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な取り組みを考えている現状で、将来的には地域に向けて発信していきたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来なら二か月に一度、開催しているところですが、コロナ禍ということもあり、文書にて報告をさせて頂いています。	2か月に一度、本人・家族・自治会長・包括支援センター職員などが参加のもと開催されている。本市に住んでいる家族だけでなく他市に住んでいる家族にも声をかけ参加をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録の提出など、必要な関係性を継続し、研修などの案内など随時、もらっている。	提出物を出す際や電話での連絡を密に行い、ケアサービス実践に積極的に取り組まれている。困ったことや不明点があれば、すぐに市に確認し対応するなどサービス向上に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、ユニット玄関を出ると直ぐに外玄関に繋がっている為、リスクを考慮しユニットの出入り口や玄関は施錠しているがご家族に説明し、理解を頂いている。また、必要に応じ開放している。身体拘束についてもチームの中で意識統一し、身体拘束をしないケアを実施している。	入社時の研修や定例の勉強会等で身体拘束の研修を実施され、入居者の行動に対して制止する声掛けでなく、どう対応するか勉強している。施設のすぐ近くに道があるため安全面の配慮から施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支えていくことが虐待防止に繋がると考え、声掛けや言葉使いについても職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、後見制度を活用する際には支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、御家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には十分に説明をし、不安や疑問、意向を聞きながら納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情窓口を設置、掲示している。	どの入居者・家族からも意見が出やすいように意見箱を設置しているが、直接意見をいただくことの方が多く状況である。コロナ禍以前に、外出イベントについての意見があった際は、外出行事を活発に取り入れていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、ミーティングやユニット会議等で意見の出しやすい仕組みを作っている。出されて意見は管理者会議で報告し、対応している。	月1回職員参加の会議があり、イベントの反省や今後についての意見交換を行っている。また、職員が委員を努めることで、気付いた事等を主体的に意見を出す機会を持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を維持できるようにまた、改善が必要であれば要望している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設との交流する機会を持ち、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族様に出来る限り見学に来て頂き不安な事、要望等を傾聴し、安心して過ごせる環境作りと信頼関係が築けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族、本人様との話し合う機会を作り、困っている事、不安、要望等を伺い、入居後も日常の様子を報告し、話し合い 共に支え合う信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していることを意識し、寄り添い、傾聴し、何事にも共有し、今後の支援に繋げる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を報告し、行事への参加の声掛けや行事の写真を見て頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、知人等の訪問を歓迎し、居室にてゆっくりと過ごして頂けるよう支援を行なっている。	今まで受診されていたかかりつけ医にも、希望があれば継続して受診できるようにしている。また、本人の希望に応じ、馴染みの理髪店に行かれたり、家族と一緒に墓参りに出かけられたりと、馴染みの関係が継続できるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性、性格、レベル等により席を決めたり、手伝いを提供し、一緒にやってもらったり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とゆっくりした時間を作り、話の中で得た情報を共有し、本人の希望するくらしをして頂けるよう支援する。また、ご家族からも話を伺い本人の笑顔が引き出せるよう支援する。	自分で意思表示が可能な方は丁寧に話を伺い、希望が叶うように対応している。意思表示が困難な方はそれまでの生活や好みなどを家族さまなどから伺い、可能な限り本人本意につながるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様に話を伺い、情報収集を行い、今までの生活のペースを崩さないよう寄り添い、話を伺い支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせる 体調を見極め、小さな変化にも気づけるよう注意深く観察し、職員間で記録や申し送り等で現状を共有し支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子を報告し、ご本人、ご家族からの要望・思いを伺い、スタッフ会議などで話し合い 必要な支援として作成している。	半年ごとに見直しを行い、その人らしく生活ができるよう都度対応されている。本人や家族と話し合いを密に行い、また医師からも話を聞くことで現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録からも問題点や様子を共有でき、かつプランの見直しが行いやすい記録を残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病状やADLにより柔軟に対応が出来るよう 他職種と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの馴染みの地域で過ごせるように家族の協力も得ながら、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みあるかかりつけ医に継続で家族と受診される場合は家族に情報提供し、家族の対応が難しい場合は職員で受診し、入居者の状態を主治医に報告し連携を図っている。	以前からのかかりつけ医を希望し継続されている入居者もいる。専門医の対応が必要な場合は、受診ができるように支援している。夜間には、看護師がオンコールで対応できる体制が確保できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日 バイタルチェックにより健康状態の把握を行ない、変わった事や、痛みの訴えがあった時は看護師に連絡し、処置、又は指示を仰いでいる。その内容は記録し、情報共有し 統一ケアに繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換・連携を密に行い、入院の様子を伺い、退院に向けて取り組んでいる。退院後の定期受診時も状況の報告し、ご指導を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明するも状態の変化と共に再度 家族と話し合い、方針を共有し支援している。	契約時に終末期などについての説明を行っている。状況が悪化したときは折を見ながら家族に丁寧に説明している。また、主治医や看護師とも連携を密に行い家族の精神面のフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より緊急時の対応マニュアルを作成し、職員の周知徹底をしている。AEDの設置に伴い、心肺蘇生とAEDの使用手順の勉強会を実施し、今後も実践力を身に付けていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を消防署員立会の元行っている。近年災害が増えている為、今以上に危機意識を持ち、避難方法や対応を学習していく必要がある。	年2回の火災訓練を実施するとともに、夜間想定訓練も行い消防署が立ち会われている。3日分の備蓄を準備し、万が一に備え職員全員に避難経路の徹底や取り組みを通達されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドやプライバシーに配慮し、日々ケアを行うようにしている。(排泄面等) 個人情報等十分に配慮し取り扱っている。	年一回程度、外部の接遇マナー研修に参加している。一つ一つの言葉かけが大切で、人格を尊重できるよう、職員同士でお互いの声掛けを検討しながら入居者と接している。また、希望があれば同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりとコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の時間のペースを大切にし、体調、気持ちに配慮しケアを行うようにしている。業務を優先しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類を入れ替えたり、訪問美容院にてカット、毛染め、パーマをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中に会話をしながら楽しい時間となるよう取り組む。またテーブルを拭いてもらったり、食器を洗ってもらったりしている。	職員も入居者と一緒に食卓を囲み、楽しく食事が進むよう工夫されている。食事の盛り付けや片付け、イベントの際に赤飯と一緒に炊くなど、入居者には、楽しみながら積極的に関わってもらうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の量、食事形態の把握をし、体調、病歴によって調整を行っている。水分摂取は進まない方も工夫し、水分確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施時には口腔内に異変等が無い確認する。義歯は夜間消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握し、時間をみて声掛け誘導や、行動を観察し、トイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表を活用することにより、失敗が多かった入居者も失禁回数が減り、リハビリパンツから布パンツに移行された方がいる。なるべく自然な形で排泄ができるよう、本人の様子を注意深く見守りながらトイレの誘導につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様、水分補給をしっかりと確保したり、活動量を増やすため、施設内の散歩や体操等している。また必要に応じ、主治医、看護師と連携を図り、個々にあった内服薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	三日に一度、体調を見なが、無理強いをせずコミュニケーションを図り入浴支援をする。	基本、週2回程度午後からの入浴を実施されている。入浴に抵抗が強い入居者には、仲のよい入居者を巻き込むなどして、タイミングや声掛けを工夫している。失禁等は、必要に応じてシャワー浴等の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースを把握し、安眠しやすい環境づくりに努める。年齢も考慮し、必要に応じ、日中も休息が必要であれば休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬はファイルに保管し、確認できる状態にしている。また日常の変化に気付いた際はすぐに看護師に報告し、主治医に連携を図ってもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・ご家族様に入居前の生活歴を聞かせて頂き、特いな事や楽しみにされていた事をなるべく継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段は、充分にはいかないものの、お正月やお盆などにはお墓参り、御仏壇参りなど御家族と連絡を取り外出出来るよう支援している。	外気と触れることができるよう、近所の散歩や洗濯物干しなど入居者と共に行うようにしている。コロナ禍により、外出が困難な状況であるが、ドライブにて車窓からの花見をされたりと可能な限り地域に出かけられる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、本人が持っていることは無く、必要に応じ家族さんに依頼する様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と連絡を取りたい場合は職員が代行し連絡を取るようしており、本人が話したい様であれば電話の取次ぎをしている。またご自身で携帯電話を持たれている方は時間に関係なく連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境つくりの為にリビングにソファを置いたり、季節の花を飾ったり、音楽を流す等雰囲気づくりに努めている。	カーテンの開け閉めを行い外の光を取り入れるよう配慮している。月ごとに季節感のある歌詞を掲示し、入居者と一緒に歌われたりと皆が居心地よく過ごせる工夫がされている。また、クイックルワイパーやコロコロなど、簡単な掃除を入居者自身が行き清潔な共用の空間づくりに携わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関にソファを置き、気の合う入居者同士くつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際はご自宅で使用していた馴染みの家具を持って来られたり、写真や思い出の品を自由に飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人が使い慣れたベッドやダンス等を持ち込まれ、居心地よく生活できる居室になるよう配慮されている。また、畳を好む入居者には、対応を図るなど工夫も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るよう、家具の配置を考えている。また歯磨き粉、ペーパー等、使い過ぎてしまう傾向があるため、必要な分以外はロッカーに保管している。		